

Waseda Vision 150 本庄高等学院の将来構想の進捗状況報告

1. 2024 年度報告

(1) 入試関連

－各学部・研究科における入試制度改革の実施状況－

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるため、引き続き、入試改革を推進するとともに、受験生・保護者に適切な情報提供を行うための広報活動を強化してきました。

①入試制度の見直し

基礎学力や入学後の学習意欲等を適切に評価するため、入学後の入試カテゴリー別成績状況等を参考にしながら、評価・選抜方法の見直しを行いました。

また、2026 年度入試より男女別の募集定員を下表のとおり変更します。

入学試験種別	変更前	変更後
一般入学試験	男子：約 100 名 女子：約 70 名	男子：約 <u>95</u> 名 女子：約 <u>95</u> 名
帰国生入学試験	男子：約 15 名 女子：約 10 名	男子：約 <u>10</u> 名 女子：約 10 名
a 選抜（自己推薦入学試験）	男子：約 45 名 女子：約 30 名	男子：約 <u>30</u> 名 女子：約 30 名
I 選抜（帰国生自己推薦入学試験）	男子・女子合計：約 20 名	男子・女子合計：約 20 名

②本学院の PR

広大なキャンパスの恵まれた自然環境をアピールするため、ドローンによる空撮映像を作成しました。大久保山の豊かな自然、セミナーハウスや上越新幹線本庄早稲田駅といった周辺施設、地域にとって貴重な文化・教育拠点としての存在感を空撮映像でご確認いただけるようにしました。

学院説明会は引き続き対面で実施し、教員主導ではなく在校生や留学生も積極的に協力するイベントとすることで、学院生活を身近に感じてもらえるよう工夫しました。同時に、対面説明会への参加が難しい帰国生や国内遠隔地在住の受験生に向けて、オンラインの生徒寮説明会・個別相談会や小規模な説明会を開催しました。

③寮の PR

多様な生徒の受け皿としての寮について、早苗寮（男子寮）、梓寮（女子寮）の魅力作りを進めました。様々なバックグラウンドを持った生徒が親元を離れて共同生活を送ることができる寮があり、通学圏在住ではなくても就学可能であることをアピールし、新たな志願者の獲得を図りました。

(2) 教育関連

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況－

①新カリキュラムの点検評価

新学習指導要領実施に伴う新カリキュラムの完成年度を迎え（1 年次から 3 年次まで各年度 32 単位構成で 3 年 96 単位）、その点検評価を行いました。その結果は、次年度以降、更に教育効果の高い授業の実施につなげていきます。

【1 年次】

芸術科目を音楽履修クラスと美術履修クラスに分け、その他の必修科目は共通に履修する。

【2 年次】

「総合的な探究の時間」以外の科目は共通に履修する。「総合的な探究の時間」は、キャンパスに素材を求めた半期ごとの輪講形式となる「大久保山学」（2 単位）として実施している。

【3 年次】

32 単位の構成は、文理共通科目（17 単位）、選択科目（14 単位）HR（1 単位）となっている。文系と理系では、必修選択について科目および科目数が異なる。文系は 1 科目 2 単位、理系は 4 科目 12 単位である。理系ではさらに「物理・化学選択」と「生物・化学選択」に分かれている。

② 大学入学後に必要な基礎学力の獲得

早稲田大学の中核を担う学生の育成を目指し、大学入学後に必要な基礎学力と知的好奇心を備えた人材育成を実施しました。

・ライティング教育の強化

第 2 学年から取りかかる長い探求活動となる卒業論文指導において、ライティング・プレゼン教育に注力しました。なお、生成型 AI が急速に普及する中で、レポートや論文において不正が疑われるケースも発生しました。ツールとしての AI の活用リテラシー教育の必要性も高まっています。

・英語運用能力の強化

本年度から新たに 4 技能試験を実施しました（4 月:GTEC Advanced (3 技能)、9 月:TOEFL ITP (2 技能)、11 月:3 年生のみ GTEC Advanced (4 技能)）。生徒自身に自らの英語運用能力を客観的に把握させ、学部進学に必要な基礎的な英語力の獲得につなげています。

③ 大学進学とキャリア教育

ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指し、各学部と連携しての進路指導、本学院独自の進路指導・キャリア教育プログラムを実施しました。

・各学部との連携

学部選択においてミスマッチが生じることのないよう、大学教員による学部説明会・模擬講義、西早稲田キャンパスの研究室訪問等を実施しました。

・本学院独自のプログラム

大学生活よりも長い大学卒業後のキャリアプランも視野に入れて、学部を選択し、大学生活をデザインするため、社会人（本学院出身者）、大学教員および現役の大学生・大学院生から直接話しを聞く機会を設けました（9 月に集中的に行う「キャリアデザインウィーク」、月一で行う「キャリアデザイン講座」）。

④ 課外プログラム

人間・社会・自然に対するみずみずしい感性を育成するべく、地域・企業との連携プロジェクト、環境保護活動、国際交流、各種コンテスト参加など、多様なプログラムを実施しました。

・地域連携・貢献プログラム

社会との接点を設け、本学院生の自立性や創造性を獲得するべく、JA ひびきのとの連携による地元農作物の PR、ほんじょう FM のパーソナリティ等、数多くの地域と連携し、貢献するプログラムを実施しました。

また、本学院のリソースを地域に還元するべく、本庄市の生涯学習プログラムである本庄市民総合大学の講師を本学院生が務める企画（科学教室、茶道教室（茶道部））や市内小学校への本学院生による出前授業（応援部、茶道部、河川研究班、有志生徒）といったプログラムも実施しました。

・アントレプレナーシップ教育プログラム

起業家精神を涵養し、イノベーションを生み出す人材を育成するためのプログラムを多数展開しました。1 泊 2 日の合宿形式で実施した「地域創生創成アイデア創出プログラム」、スタンフォード d-school の「デザイン思考ワークショップ」、日本政策金融公庫による「高校生ビジネスプラン・グランプリ」出張講義等を実施しました。

なお、5151 件の応募があった「高校生ビジネスプラン・グランプリ」においては、本学院生が審査員特別賞（実質的な 3 位）を受賞しました。

⑤ 教員の働き方改革

「教員の働き方改革」の流れの中で、2 学期から、教員の部活動負担軽減を目的とした「部活動指導員制度」を導入、運用を開始しました。それにより、学習指導や生徒指導等、教員が本来担うべき業務に集中できる環境を整えます。

（３）研究関連

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況－

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を年 1 回刊行しました。

（４）国際関連

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

① 派遣留学制度

生徒の派遣留学を促進しており、2024～2025 年度にかけて、第 1 種留学（復学時に 1 年遅れとなる留学）で 3 名が（アメリカ 2 名、シンガポール 1 名）、第 2 種留学（復学時に 1 年遅れとならない留学）で 1 名（カナダ 1 名）に留学しています。

② 短期留学プログラム

ニュージーランドの政府機関 Education New Zealand（ENZ）と早稲田大学国際部との連携、Air New Zealand の協力により、ニュージーランド短期留学「キア・オラプログラム」を実施しました。2024 年 7 月には 17 名、2025 年 3 月には 12 名の本学院生が 2 地域（Palmerston North、Hawke's Bay）の各校に分かれて、通常の授業の他に、英語レッスン、課外活動、小旅行、交流会、ホームステイ等を通じて学び、充実した 2 週間の海外プログラムを経験しました。

③ 受入留学生

受入留学生については、個性を大事にしながら本庄学院生と一緒に育成していけるよう、滞在中の教育プログラムをさらに充実させました。韓国、タイからの長期留学生を受け入れ、それぞれの言語レベルと興味関心に応じた個別の時間割を作成し、学習支援を行いました。部活動や学校行事の他、地域の国際理解を深める企画や、日本文化を知るためのフィールドワークに積極的に参加し、充実した留学生生活を過ごすことができました。また、学院生にとっても留学生とともに考え、学ぶ機会は貴重であり、相互の成長につなげることができました。

④ 留学説明会の実施

大学進学後の留学を視野に入れている生徒、保護者向けに、早稲田大学留学センターとの共催による留学説明会を 6 月にオンラインで開催しました。

⑤ 姉妹校との国際交流

長い SSH・SGH 期間中に培われた海外校とのネットワークに基づく姉妹校への訪問および受け入れを以下のとおり実施しました。

国	学校名	訪問	来訪
タイ	Mahidol Wittayanosorn School	1 月	10 月
シンガポール	National Junior College	8 月	11 月
台湾	台中第一高級中学	10 月	5 月
韓国	セロナム高校	7 月	－
韓国	Hana Academy Seoul	7 月	1 月

（５）その他

① ダイバーシティ教育

本学院生に対して、文化・人種・国籍・障がい・ジェンダー・政治的信条などの違いを相互に受け入れるための配慮

や態度、行動を促すことを目的として、9月に早稲田大学 GS（ジェンダー & セクシュアリティ）センター長・専門職員による講演、ALLY 学生と学院生によるフリートーク等を実施しました。

教職員に対しても、4月に基本的な LGBT の概念、教場で気を付けるべきこと等をテーマとした「ダイバーシティ研修」を実施し、学院生と教職員が安心して学校生活を送ることができる環境を整えました。

② 保護者の本学院教育への理解を深める試み

教育の基本は生徒と教員の関係だけではなく、保護者の学校教育への理解が必要であると考え、従来の年 2 回の保護者会に加え、留学説明会をオンラインかつ夜間の開催とすることで、保護者が生徒と共に参加できる機会を増やす努力を行いました。

また、生徒が普段どのような授業を受けているのかを保護者に体感してもらうと同時に、その知的好奇心を満たす企画として、「保護者向け課外講義」を実施しました。

以上

2. 2025 年度計画

(1) 入試関連

－各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

全国・世界から多様で資質の高い生徒を受け入れるために、入試改革（基礎学力や入学後の学習意欲等を適切に判定するための選抜方法の見直し）と教育環境の充実に取り組みます。

- ① 男女とも平等に資質の高い生徒を受け入れるため、2026年4月入学者対象の入学試験（2025年度実施）より、入学定員を下表のとおり変更します。

入学試験種別	変更前	変更後
一般入学試験	男子：約100名 女子：約70名	男子：約95名 女子：約95名
帰国生入学試験	男子：約15名 女子：約10名	男子：約10名 女子：約10名
α選抜（自己推薦入学試験）	男子：約45名 女子：約30名	男子：約30名 女子：約30名
I選抜（帰国生自己推薦入学試験）	男子・女子合計：約20名	男子・女子合計：約20名

- ② 女子生徒の増加に合わせて、SDGs 目標 5「ジェンダー平等」の実現に向けた教育的な取り組みを強化すると同時に、受験生にとって魅力となる「みんなに居心地の良い」学校環境づくりに必要な環境整備を進めていきます。
- ③ 多様な生徒を受け入れるための受け皿としての寮について、早苗寮（男子寮）、梓寮（女子寮）の魅力作りを進めていきます。また、遠隔地の入学希望者の経済的な負担を減らすための給付型奨学金制度の新設を検討します。

(2) 教育関連

－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

- ① 2024 年度をもって完成した新カリキュラムの点検評価、見直しを行い、更に教育効果の高い授業の実施、高大連携による基盤教育の充実を図ります。特に授業改善に向けての取り組みが個人単位にとどまっていた点を課題と捉え、教科枠にとらわれない組織的な取り組みを強化します。
- ② 地域・企業との連携プロジェクト、環境保護活動、国際交流、各種コンテスト参加など多様なプログラムにより、人間・社会・自然に対するみずみずしい感性を育成するとともに、自分の適性を見つめる機会を作ります。
- ③ ミスマッチのない学部進学と将来設計を目指し、大学入学後に必要な基礎学力（アカデミック・ライティング、「数学、データ科学、情報、英語 4 技能」と知的好奇心を備え、他の学生をリードするような早稲田大学の中核を担う学生を育成します。学部との教育活動の連携や情報交換を密にするとともに、本学院独自のキャリア教育・進路指導教育プログラムの充実をはかります。
- ④ 部活動顧問の負担軽減をはじめとした「教員の働き方改革」に関する施策を検討し、学習指導や生徒指導等、教員が本来担うべき業務に注力できる環境を整えます。

(3) 研究関連

－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画－

本学院の専任教員、非常勤講師等による研究論文や調査報告を掲載した「研究紀要」を刊行します。また、特別研究期間に海外での研究を後押しし、国際標準の研究への取り組みを強化します。

(4) 国際関連

－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等－

学院生の留学先を斡旋するなど、派遣留学を促進するとともに、留学生の受入プログラムも充実させることで、学院生と留学生がともに考え、学ぶ機会を設け、相互の成長につなげていきます。

- ① 1年間の留学を経験しても、その1年間を含む高校3年間で卒業できる留学制度を活かし、本学院から海外に羽ばたく生徒の増加をめざします。
- ② Education New Zealand との協定に基づく留学プログラムとして、既に短期留学プログラムが展開されていますが、長期留学プログラムの実現に向けた交渉を開始し、学院生の心理的ハードルを下げた状態で長期留学にチャレンジできる環境を整えます。
- ③ 長い SSH・SGH 期間中に培われた経験と国内・海外校とのネットワークに基づく、Mahidol Wittayanusorn School (タイ)、National Junior College (シンガポール)、Hana Academy Seoul (韓国) 等との相互訪問交流を拡充するとともに、新たな交流先と未来的な国際交流プログラムの開発を目指します。

(5) その他

- ① 多様化・グローバル化の時代の中で、本学院では教育リソースを学外にも求め、地域の特性を活かした、より効果的で高いレベルの教育を目指すとともに、地域への貢献・文化的交流の拠点ともなることを目指します。また、日本内外で活躍する卒業生の力を借りて、学院生がロールモデルを持てるようにします。
- ② 学院生に対して、文化・人種・国籍・障がい・ジェンダー・政治的信条などの違いを相互に受け入れるための配慮や態度、行動を促すダイバシティ教育を実施するとともに、教職員に対しても同様の研修を実施することで、本学院生と教職員が安心して学校生活を送ることができる環境を整えます。特に、共学校として身近な課題であるジェンダー平等の実現に向けた取り組みを強化します。

以 上